

マレーシアで電気バスの実証事業を開始

— 約10分間の超急速充電による高い運行頻度と電池の長寿命化の両立実現 —

当社は、株式会社東芝（以下、東芝）、株式会社ピューズ（以下、ピューズ）、株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル（以下、オリエンタルコンサルタンツ）と共同で、マレーシアのプトラジャヤ市周辺において大型電気バスの実証事業を開始します。当社のパワエレ技術を生かした約10分間の超急速充電器による電気バスへの高信頼性充電を実現します。

本実証事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「国際エネルギー消費効率化等技術・システム実証事業」の委託先として採択されたもので、総事業費は約20億円です。実証期間は2015年度から2016年度で、マレーシアのプトラジャヤ市周辺において大型電気バスを運行し、バスの走行能力、熱帯地域における電池の寿命特性、事業性などを検証します。今後、機器を設計、製作し、2016年4月から電気バスを運行する計画です。

バスの電池には、長寿命特性と急速充電性能に優れた「SCiB™」を用い、バスターミナルに設置した充電装置と組み合わせることで、約10分間の超急速充電運行を実現します。また、電池の残量、充電時の電圧や電流の状態を常にネットワーク上でモニタリングすることにより、電池の残量不足や故障を未然に防げます。さらに、全地球測位システム（GPS）でバスの位置情報を常に把握しており、乗客や運行事業者がバスの位置をスマートフォンやタブレットで確認することも可能です。

東芝は、実証事業全体のとりまとめ、二次電池の供給および充電ステーションの建設を担当します。ピューズは電気バスの組み立て、ハセテックは超急速充電器の供給、オリエンタルコンサルタンツは運行計画の策定などを担当します。

マレーシアでは、経済成長に伴う大気汚染などを背景にエコカー市場の拡大が見込まれております。当社は今後、今回の実証で得られた知見をもとに、同国内において電気バス用充電システムの製造・メンテナンスの体制を確立し、電気バス、充電インフラと情報システムを組み合わせた低炭素型都市交通ソリューションの一躍を目指します。

実証の概要

期間	2015年度～2016年度
----	---------------

実証内容	熱帯気候での電気バスシステムの走行実証 二次電池の寿命特性検証 大電力充電の連続オペレーション実証 など
システムの概要	大型電気バス 11台 超急速充電システム 3台 急速充電システム 1台 エネルギー管理などの情報システム
運行ルート (予定)	① マレーシア プトラジャヤ市内循環ルート ② プトラジャヤ市-サイバージャヤ市間循環ルート

電気バスシステムのイメージ図



以上

本資料に関するお問い合わせ先：

パワエレ製品部 パワエレ営業技術 早坂・本橋 TEL 045 (542) 4444